

普及活動情勢報告（令和4年2月分）

中央西農業振興センター高知農業改良普及所

伝統野菜と伝統食のコラボ！ ～牧野野菜お漬物づくり教室～



お漬物教室に向けて準備をする
近澤さん

1月23日、土佐の伝統野菜「牧野野菜」の保存に取り組む Team Makino が「牧野野菜のお漬物づくり教室」を開催し、普及所はこの開催を支援しました。コロナウィルスの感染拡大のため、対面形式での開催から、レシピ動画とお漬物を配布する形に変更したものの、当日は21名に参加いただきました。

お漬物のレシピは、大橋通の老舗漬物屋「中央食料品店」の近澤さんに、潮江菜、山内家伝来大根、田村蕪の特徴に合わせて作成していただきました。参加者からは「野菜がおいしいからお漬物もおいしい」「この漬物はどこで買える？」などの声が聞かれ、牧野野菜への関心が高まっていました。

普及所では、今後も伝統作物の振興を支援していきます。

地域の将来を考えよう ～人・農地プランの実質化に向けた座談会～



人・農地プラン座談会
(久重地区)

1月26日、久礼野公民館で、人・農地プラン実質化に向けた座談会が開催され、久重地区の生産者12人が参加しました。

座談会では、「耕作放棄地が増え、鳥獣害が増えている」、「水稻用の機械が高すぎて今の機械が壊れたら更新できない」等、地域の課題について様々な意見が出されました。普及所から、地域の課題解決のために、農業機械の共同利用や集落営農の取組を提案したところ、地域で集落営農組織の設立を検討していくことになりました。

今後、普及所は関係機関と連携して、集落営農の勉強会を実施し、久重地区での集落営農組織の設立に向けて支援していきます。

生育は順調です ～ハウスミョウガ現地検討会～



事務所内パソコンの環境
データを見学する生産者達

2月1日、JA高知市大津支部園芸部ハウスミョウガ部会の生産者ほ場にて現地検討会が開催され、生産者5名が参加しました。

3戸のほ場を巡回し、栽培状況や環境データを中心に活発な意見交換が行われました。普及所からは、IoTクラウドによる環境データの分析、GAPの取り組みおよび再分化系統比較試験について報告しました。生産者からは、「反収をもう少し伸ばしたい」、「ハウス内環境データを測定し、栽培の振り返りがしたい」などの意見がありました。

来年度も普及所はデータ活用による生産技術の向上やGAPの推進に取り組んでいきます。

作の始まりは剪定から ～土佐山柚子生産組合剪定講習会～



剪定前の講義

2月3日（土佐山地区3カ所）、10日（鏡地区）において、柚子剪定講習会が開催されました。本年は、4カ所合計で60名程度の参加者がありました。

最初に普及指導員より剪定についての講義を行い、次いで土佐山地域振興課柚子専門営農指導員より施肥についての説明を行ってから、両名および数名の篤農家により数本の樹で剪定の実演を行いました。参加者からは、剪定がわかったような気がするといった声が聞かれました。

今後も普及所は時期ごとに研修会を支援し、生産者の技術向上を図っていきます。

より良い農業に向けた取り組み ～JGAP 更新審査の実施～



書類審査の様子

2月25日、26日に高知市春野地区でトマトを生産する2法人にて、JGAP 更新審査が実施されました。

普及所は、前回の維持審査時に指摘があった内容の確認や、ほ場や農産物取扱い施設の現地指導を行いました。生産者からは JGAP 認証取得後の変化について、「さまざまなリスクが分かるようになり、対策ができています」と前向きな意見がありました。

次回審査はR4年2月に維持審査が実施される予定です。普及所では今後も継続して、食の安全・安心を確保する GAP の取り組みを支援していきます。